

平成27年度稚内北星学園大学地域志向教育研究経費採択課題 水族館多言語化プロジェクト ワークショップ開催



稚内北星学園大学 地域観光支援室

平成27年度地域志向教育研究経費の採択課題「インバウンドを意識した観光施設づくり—本学のシーズを活かした試行—」通称：水族館多言語化プロジェクト（研究代表者：黒木 宏一・本学講師）において、6月13日にワークショップを開催した。

ワークショップには、プロジェクトのメンバー（教職員6名、学生7名）のほか、水族館、本学教職員、そして子どもまで幅広い年齢層の19名が参加した。ワークショップの意義は、ワークショップより得た新知見にとどまらない。開催告知のフライヤーはプロジェクトメンバーの学生によって制作されるなど、開催に至る過程・段取りのノウハウも蓄積される。地域社会における産学官連携の充実、発展過程の科学的な検証へとプロジェクトは一步一步続いていく。

＜ワークショップの目的・内容＞

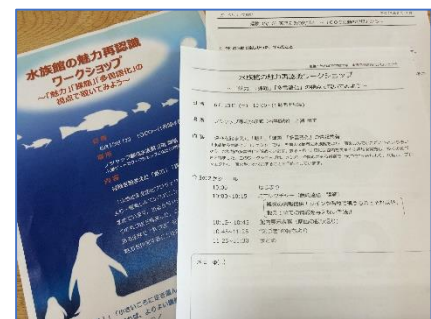
巡検を踏まえた「魅力」「課題」「多言語化」の情報共有
「水族館多言語化プロジェクト」では、外国人来館者に水族館をより一層楽しんでいただこうという思いから、水族館の多言語化を進めている。去る5月16日には館内を視察する巡検を実施し、多くの気づきを得た。このワークショップは、メンバーや関心がある皆様で“気づき”を持ち寄り、共有し、プロジェクトに一層の魅力を加えることを目的としている。

＜ワークショップの流れ＞

10:00 10:00～10:15	開会 ミニレクチャー（藤崎達也 講師）	
	観光の情報提供！ サインや看板で補うものとそれ以外、 取って全ての情報を与えない手法!!	
10:15～10:45	館内展示視察（前回の振り返り）	
10:45～11:25	“気づき”の持ち寄り	
11:25～11:30	まとめ（藤崎講師・水族館職員より感想）	



図表 プロジェクトメンバーの学生が制作したワークショップのフライヤー



図表 当日のレジュメ

＜プロジェクトの意義と発展可能性＞

本事業の意義

教育効果
・翻訳のプロセスを知る
・連携のプロセスを知る
・マーケティングの理解
・消費者行動の理解
・経済性の理解、など

研究
・シーズの提供
・地域連携のプロセスの事例研究、など

地域貢献
・地域連携による観光施設の向上
・インバウンドへの対応強化、など

研究の発展可能性

- ① スマートフォン等電子端末検索への対応
(☛ 本学ならではの視点)
- ② ニーズへの更なる対応（中国語への対応）
- ③ 多言語化事業の効果の検証の継続、及びその深化
(☛ 緩やかな効果発現の観測)
- ④ 他施設への応用研究
(☛ 研究・教育・地域貢献の広がり)